

森 の 通 信



31

HUTAN

1994年3月28日発行



Kenyah
old women
at SARAWAK

ウータン・森と生活を考える会

〒530 大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308号「関西市民連合」事務所気付
phone 06-372-1561

【一部】300円

【年会費】3000円

【郵便振替】大阪3-3880

PRINTED ON RECYCLED PAPER

STAFFから一言!

everybody on the 熱帯林!

風 樹々 川

鈴木一男

深い谷

神々の深い谷から

風がかけ上がり

あたりにごわめきを残した

森の中に

精霊はすんでいる

はるか遠い過去から

ただ生命の輪廻がくり返される

その幽玄の広がり

そこを荒らす者は

自らをも荒らしていることを

忘れてはいないか

雨、雨が降り

樹々を大地を静かにぬらす

その水はやがて

土の中から姿を現わし

海にそそぐ大河の

はじまりとなる

〈皆さん、森は大聖にしたいですよ。ねえ。〉

〔ウータン活動報告〕

93.11.25	出前講座「伊丹市公民館」 「サラワク先住民と私達の暮らし」
11.29	ウータン、神戸NGO協議会名で依頼した「熱帯林保護の取組みについて」を青屋市は、複合合板使用と熱帯材削減の回答あり。
11.30	姫路市、伊丹市「取組み」の回答あり。
12.13	川西市、「取組み」の回答で今年モデル事業を実施し10%削減と表明。通信「ウータン」三〇号発行。
12.20	岸和田市、「取組み」の再回答あり。
94.1.13	熱帯材モデル工事実施で80%削減。建設省、「環境政策大綱」発表。熱帯材使用削減の目標設定等盛り込む。
1.13	三愛化成と子会社ARE社は放射能排出生場の閉鎖をやむなく決議。
1.18	ウータン総会。
1.23	三愛化成の公害輸出を問う関西の会、「工場撤退」報告集会に開く。ウータン参加。
2.19	ウータン総会。
3.9	「パプア・ニューギニアとソロモンの熱帯林破壊と私達報告集会」に協力。

森の通信

HUTAN 31号 目次

(CONTENTS)

- ウータン総会 '94 報告 3
- 3/9「パプア・ニューギニアとソロモン諸島の熱帯林破壊と私達」の 豊中集會 4
- サラワク'93 見聞録③ 井下祥子 6
- ウータンニュース 「日産杉の合板」 9
- 【連載】熱帯林を考える⑤ 猪俣栄一 10
- 2/18~20「アジア太平洋地域森林・環境保護会議」に参加 14
- マレーシア ARE 公害裁判経過報告 16
- ウータンに届いたメッセージと 会費・カンパを送ってくれた方々 17
- ウータン・アートギャラリー ⑩ 石丸千里 19

【表紙】サラワク・ケニヤ族のあばあさん、小さい頃から耳に穴をあけ、少しづつ輪の数を多くしていくようになります。photoは 阪本良五さんより。

94ウータン総会・今年の方針

事務局長・西岡良夫

一月二三日、アピオ大阪で総会を開いて、昨年の反省を含め、今年の方針を検討しました。

九三年の方針

①自治体キャンペーン

今年一月に岸和田市から、九四年より熱帯木材削減モデル工事を行うと回答があったので、大阪府、大阪市、堺市、豊中市、吹田市、八尾市、藤井寺市、松原市、高槻市、箕面市、守口市、東大阪市、大阪狭山市、貝塚市、茨木市、岸和田市、計十七自治体が削減実施となりました。また芦屋市等も使用削減を始めることが判りました。

予想以上に自治体の熱帯木材使用削減が進んでいます。今後大阪府下自治体を中心に削減を働きかけるつもりです。また、「削減検討会議」を関西のグループと夏頃までに作る予定です。

②サラワク等森の破壊状態

下表のように、サバ州では昨年の輸出禁止で、熱帯材丸太の輸出地がサラワク州が六五%、パプア・ニューギニアが第二位となり約二四%、サバは四%と激減しています。またサラワクでも奥地で伐採が続けられています。今後、パプアやソロモン諸島、ミャンマーでの乱伐が予想され、それをどうするかが問題です。

またサラワクでは、(一)ヤシ・プランテーション化、(二)リゾート開発、(三)奥地伐採、道路封鎖、弾圧が懸念。対応策を検討し、現地とどう連絡をとるかも問われています。

③家具の調査

熱帯材の約三割が家具に使用され、今後自治体の熱帯材使用削減と同様に市民の使用削減が必要なので、まず調査から進めます。

④通信、新しいパンフレットの作成

⑤学習会・熱帯林連続講座

(一) 四月から各月一回催す
(二) 誰でも参加しやすい形で、熱帯林保護につながる学習会にする

⑥事務局メンバー・会員を増やすことなどを決め、予算についても検討しました。

表 1991-93年南洋材丸太輸入量の推移 (輸入量は千㎡, シェアは%)

国名	91年 (%)		92年 (%)		93年 (%)		前年比
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア	
サバ州	2577	25.5	2063	20.7	293	3.9	-85.8
サラワク州	6468	64.0	6363	63.8	4922	66.2	-22.6
パプアニューギニア	818	8.1	1161	11.6	1754	23.6	+12.0
ソロモン諸島	187	1.9	309	3.1	346	4.7	+11.9
ベトナム	23		9	0.1	-	-	-
ラオス	3		13	0.1	13	0.2	+0.1
ミャンマー	12	0.6	12	0.1	76	1.0	+496.1
カンボジア	21		36	0.4	24	0.3	-32.2
フィリピン	2		-	-	2	0.0	-
総計	10,114	100.0	9,969	100.0	7,438	99.9	-

92/2.9及び93/2.10「日刊木材新聞」, 木材輸入協会より作成

パプア・ニューギニア、ソロモンの森も危い!!

3・9 / 現地からの報告 * 豊中国際交流センターで

〔文責・西岡〕

八〇年代後半、熱帯林の破壊はサバ、サラワクの時代だった。だが乱伐で、サバ州は九三年一月に丸太輸出禁止。その影響で、今度はサラワク、PNG（パプア・ニューギニア）時代となってきた。乱伐を止めれない歯がゆさ。パプアからの丸太輸入量は、昨年より5割増えて一七五万m³で、現地では一分間に二本も切られていると言う。その6割が日本へ運ばれている。また、ソロモン諸島からの輸入量も一二%増で、パプア、ソロモンの熱帯林破壊が危惧される。

* サラワク木材会社もパプア買占め
「パプア、ソロモン諸島では二十年前より本州製紙、日商岩井、晃和木材などが数十万haの森を切られています。一九七五年にパプアが独立した後も、所有者の頭越しにパプア政府は企業に伐採権を与えています。乱伐でトリバ

ネアゲハ、極楽鳥たちが絶滅の危機に瀕し、住民の生活を損ねてきました。森林伐採に多額のODAを日本政府は融資し、破壊に手を貸しているのです。そして今、新たにリンブナン・ヒジヤウ社などサラワク華僑資本が、パプアの伐採権の8割近くを買占めたと言われています。森林破壊を止めたい。」と、『パプアソロモンの森を守る会』スター清水がスライドを映して語った。

* 失われゆく最後の楽園パプア
パプアのNGOで働くマリウスさんは、伐採が原因で環境面だけでなく、社会的、経済的に被害が破壊されてきたことを語ってくれた。

「昔は楽園の地だった。ところが乱伐して企業が支払う伐採権料は、m²当たりたった3キナ（約3ドル）で、伐採権料の75%が政府に納められる。輸出の関税も僅かです。それより日本へ運



ぶ商社、加工する木材会社の利潤の方がずっと大きいと聞いています。伐採によって住民の生活と非常に結びついている動物、植物、それらを取りまく生態系の破壊が昼夜となく続いて、拡がっているのです。また換金生活に馴らされた男たちが伐採に従事し、家族のあり形も変わってしまったのです。

住民が伐採中止を申入れても、聞きいれられず、日本、台湾、マレーシア

の会社は我もの顔のように薙ぎ倒し、壊滅寸前へと迫いやっています。」

パプアでは九一年に森林法が改定され、伐採規制を進めだした。NGOは新しく改革した森林法を支持し、新たなガイドラインの制定を要求した。

「この法は、伐採権料が所有者に百%支払われるものとなったのです。住民が森を管理し、保護するものとなりました。もう一つは再生可能な森林にするために、所有者も管理に参加し、もし開発しても再生できるかを科学的に調査する、というものです。しかし、改められた森林法を遵守させようとする現森林大臣に脅迫も届き、改革法も有効な形になっていません。

パプアの森を守るために、日本の皆さんも協力ください」と、マリウスさんは再度訴えた。

*ソロモン——幸福の島は何処に！

もう一人のゲストはソロモンからのシルベスターさん。ピンクのシャツに茶色のネクタイが良く映える。今日が最後の報告なので、とてもHappy

と語ってくれた。

「ソロモンの森林破壊は、パプアと同じように生態系が壊され、人々の暮らしが変わりました。今こそ、森を守らねばなりません。未来を考えてのものでないと、大きな禍根を残します。

ソロモンは、もともと楽しい家族的な島だったので。私達は《幸福の島》と呼んできたのです。

ところが、巨大な木材会社が来て、伐採が始まり、暮らしも変わりました。人々は現金生活を知って、お金が入ることによって、他人のものを、森をも盗むようになりました。アル中、姦通もおきています。

私達の社会では、祖祖父、祖父、父と預かり受け継いできた土地や森があり、それは大切な財産でした。だが、森も土地も奪われ、熱帯木材はソロモンから年間三五万㎡も日本へ輸出されています。日本が原木を求めれば求めるほど、ソロモンの森が破壊されているのです。パプア、ソロモン材は家具、合板になっているので、使用を止めるよう友人に働きかけて下さい」と。

前項写真・伐採されたパプア・ニューギニアの樹カロフィル。日本は

主に家具用に輸入している。

左写真・ソロモン・アミオ村の伐採現場（中央）。赤土が向きだしの無残な道が続く。



トウアロマ・スバン

サラワク見聞録③

伐採と闘った村・後編

井下祥子



前回は、村の（といっても、一つのロングハウスだが）の、牧歌的な暮らしを報告した。

ゆったりした時のながれ、川での水浴び（水は濁って「泥の川」だが）、車座になってワイワイいいながらの食事…。

うっかりすると、田舎の親戚の家に泊まりにきた気分になってしまう。

「わたしはサラワクへ何しにきたんやろう？」とアせる。

が、どっこい、このトウアロマ・スバンは、2社の伐採会社に狙われ、闘った村だったのだ。

それも、一方は日本系の会社に。

ホームステイさせてもらったJさんのお話をきく。

Jさんは、いまは亡きハナ肇を精悍にしたような、元気なおじさんだ。

食事時には「おう、もつと食え」という感じで鉢をまわしてくれるし、巻貝の煮たのをうまく吸い出せないで困っていたら、中身をとりだしてくる、気のいいひとだ。

「一九九〇年に、ブキット・パントウというところで、5日間プロクテッド（道路封鎖などで伐採を阻止するたたかい）をやった。

『ダイア・マレーシア』（三菱系：またしても！）という伐採会社の中国人マネージャーが「共有林と、あなたたちの土地をはっきりさせる書類にサインしろ」とトウアロマ（首長）に言ってきた。

ほかの者は、「トウアロマにだけとは、けしからん」と相手にしなかったんだ。

（サラワク先住民のうち、イバンには身分制度がなく、首長は1町内会長

さん」といったところらしい。何かを決めるときは、全員が賛成する必要があり、一人でも反対すれば、伐採も受けられないとのこと。

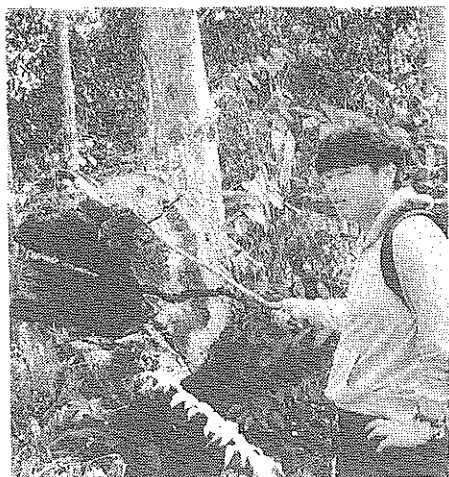
「多数決」できめる日本より「少数意見の尊重」が徹底しているようだ）

マネージャーが「首長ひとりに任せたくないのなら、自分たち一人一人の持つる木に印をつけてみる」と言っただけで、そのとおりにしてやった。

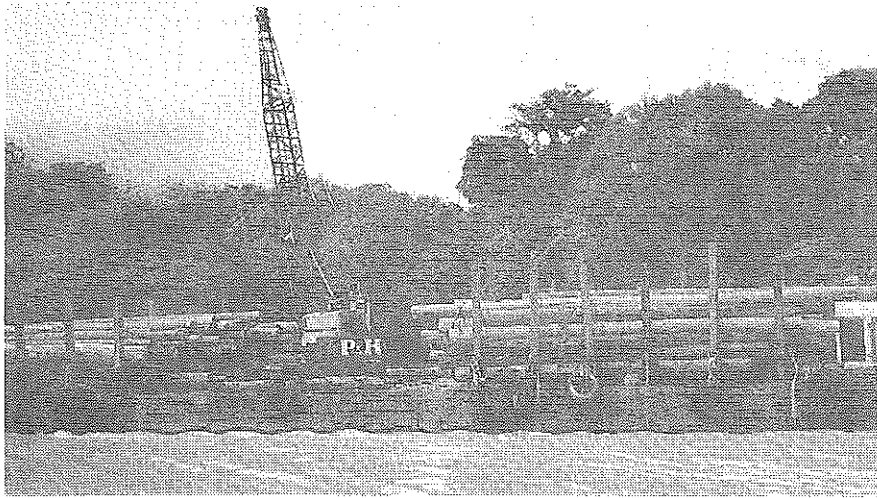
みんなペンキで印をつけたのさ。

（さぞ大仕事だったろう！）

それで、ダイアマレーシアは、伐採を中止したままだ。



写真・伐採されたが中が中空なので
放置された木



写真・丸太を積んで川を下る船

「第二のたたかい」

ダイアマレーシアは川の右岸を伐採したが、今度は、シニアンという中華系の企業が、九一年に左岸を伐採し始めた。

このあたりのいくつかの村（ロングハウス）が、会社に伐採中止を要求し、マネージャーに「自分の荷物を持って出ていけ。さもないと、お前の持ち物は我々が全部持つていくぞ」と通告した。

すると、一週間だけ伐採をやめたんだが、また伐り始めた。それで、男女あわせて二百人ぐらいが、中止を申し入れにいった。

マネージャーは、三十六人の軍人と地方行政官を呼んで、我々に「もうすぐガワイ（収穫祭）だから、ロングハウスへ帰れ」という。わしらは、「ガワイだろうとかまわん。ここにいろ」と答えたさ。

「でっちあげ」

イバン族出身の議員に頼みにいってみた。が、「あなた方を支援したら、こつちが監獄行きだ」と断られたよ。

誰も頼みにできないとわかって、食料持参で事務所前で一週間がんばったが、相手は出ていかない。

ある日、警官と地方行政官をつれてきた。

「お前らを牢にぶちこんでやる」

「そんなことができるもんか。ここはわれわれの土地だ」

マネージャーは困って、「先住民が橋を焼いた」と偽の訴えをした。ほんとは、従業員に命令して焼かせたのさ。

警察はこの訴えによって、九一年の八月、先住民を八人逮捕した。逮捕されたのは、トゥアロマ・スパンから一人、トゥアロマ・サギンから二人、それに、トゥアロマ・スナオンから五人だった。

裁判で三回公判があつて、有罪になった。七人は懲役六ヵ月、わしだけ、九ヵ月だった。

（普通、こういう事件なら、三週間程度の刑で済むのに、異例の重さらしい。「みせしめ」のためだろう、とのこと）

なぜわしだけ長かったか？それは、わしが首謀者だと思われたのと、法廷でわしが一番よくしゃべったからだろう。（笑い）

ミリのランビル刑務所に送られた。ひどい扱いは受けなかったが、毎日、「なぜ伐採に反対するのか」と訊問された。

刑務所では農園の作業をさせられた。いろいろな植物の種をこつそり持って帰って（釈放されてから）うちの畑にまいたけどね。（大笑い）

シニアンの伐採はとまった。その後シニアンは、一戸あたり、千八百マレシアドル支払ったが、だからといって、受けた被害が取り戻せるわけじゃない。

伐採でなにか困るかって？

一番困るのは、川の汚染だ。泥で濁ってしまったたり、ガソリンが流れたりした。以前は澄んだ流れで、魚を突いて獲ったりできた。魚もタニシ（食用）も減ったよ。

大きな木がなくなると、家や棺桶の材料にも困る。ラタン（藤）や、山菜も減った。

伐採作業に雇われて大怪我をする者もいる。

（町の書店で買った本には、ゾットとするような怪我をした先住民の写真が沢山載っていた。ヘルメットもない、危険な作業で、死ぬ人も少なくないとい

う。現金収入を得る方法の一つが、伐採企業での危険な作業なのだ）



川をさかのぼって、上流のトゥアロマ・サギンでも同じような話をきいた。

そのロングハウスには、昔風に入れ墨をし、耳を長くした長老が健在だった。（前回の報告にある写真をみてください）若い娘さんが、器用にカゴの材料らしいものを編んでいた。

子供たちの写真を撮ろうとしたら、女の子が、自慢そうに赤ちゃんを抱きあげてみせた。

話をきいて帰ろうとすると、村の人達が、ロングハウスの窓から、船着き場に降りていく私たちに手をふってくれた。



私の会った人々や、あの熱帯林は、どうなったろう。

川霧のたちこめる朝や、マンディー（水浴）の日々が、今も変わらず続いているだろうか。

おばあちゃんは、今夜も、せつせとカゴを編んでいるだろうか。



そして、サイチョウは、もう二度と森に戻って来ないのだろうか？

（終り）

建設省が環境政策大綱

熱帯木材保護など明記

(使用削減目標設定)

建設省は十三日、建設行政と環境保全の調和を図るため、同省の環境政策の基本方針となる「環境政策大綱」をまとめた。大綱では、公共事業を進める中で地球温暖化防止のため二酸化炭素排出の削減や熱帯木材の保護など環境面の配慮を明記し、開発途上国への人的、技術面での協力など地球環境問題への貢献を強調している。開発事業に関する環境

建設省は十三日、建設行政と環境保全の調和を図るため、同省の環境政策の基本方針となる「環境政策大綱」をまとめた。大綱では、公共事業を進める中で地球温暖化防止のため二酸化炭素排出の削減や熱帯木材の保護など環境面の配慮を明記し、開発途上国への人的、技術面での協力など地球環境問題への貢献を強調している。開発事業に関する環境

環境情報を国民と相互に提供し合うことなどを通じ、官民一体で環境問題に取り組み姿勢を強く打ち出し、開発を巡る国と住民の対立といった従来型の構図から転換を図ることとしているのが特徴だ。

大綱は建設相の諮問機関「豊かな環境づくり委員会」(近藤次郎委員長)の昨年六月の提言や、同十一月に公布施行された環境基本法



きれいに間伐された森は、自然保護にも多大な効力を発揮する

日本と熱帯の森 保全へ 国産材使用コンパネを開発

県建設業協会建築部会 (中九州建設)

土木業者や建築業者などで組織する熊本県建設業協会(岩永研一会長)は、県下一斉クリーン作戦でゴミ運搬に当たるなど環境保護に対して積極的な姿勢で臨んでいる。同会の会員企業でも日

組みを展開しているが、その中のひとつ、建築部会員の九州建設(熊本)市、後藤道雄社長)ではこのほど、国産間伐材を使ったコンパネを実用化。環境保全と林業振興の両面で大きな期待を裏

(合板+樹葉+合板) (合板+樹葉+合板)

同社の国産材使用複合合板は、これまでチップ材になるか焼却されていたスギの間伐材(直径約十五・四十センチ)を利用して、一枚のコンパネに占める輸入材の使用量を半分に抑制。しかも、既存

のラワンコンパネとほぼ同じ価格。製造は水俣市の新築合板工業(井上博社長)が行っており、今春の発売以来、堅調な需要が続いているという。また、九月末にはJAS(日本農林規格)にも追加認定された。

排出カットのほか、オゾン層破壊を防ぐため建設分野での特定フロン使用量削減を明記。熱帯木材の使用削減目標の設定や建設副産物のリサイクルなど、省資源、省エネルギーの促進などを盛り込んだ。騒音や水質汚濁、緑化等の目標値を定めた環境長期計画を来年度から作成するほか、住宅、都市、河川等の各局ごとに環境計画を策定。環境影響評価を充実させるため、民間事業での環境影響評価の検討も含め、北欧先進諸国の事例を調査する。

推進体制では、開発事業への理解を得るため、国民

建設省は、使用削減の目標設定など熱帯材使用削減を「政策大綱」で打ちだした。また、首都圏でも削減会議が昨年からもたれた。

これからは、全国的な使用削減が必争という方向にむかっだろう。ことしのアリス・デーは、各団体が個人が「自分主体キャンペーン」を進めよう!

(Y)

の基本理念を踏まえたもので、中央省庁で所管行政に関する環境政策を大綱として体系化したのは同省が初めて。環境保全を建設行政の主要目的に位置付け、環境政策の理念、推進方策、推進体制の三章十二項目から成る。

環境政策の理念では、建設行政と環境とのかかわりを地球規模でとらえ、温暖化防止のための二酸化炭素

排出カットのほか、オゾン層破壊を防ぐため建設分野での特定フロン使用量削減を明記。熱帯木材の使用削減目標の設定や建設副産物のリサイクルなど、省資源、省エネルギーの促進などを盛り込んだ。騒音や水質汚濁、緑化等の目標値を定めた環境長期計画を来年度から作成するほか、住宅、都市、河川等の各局ごとに環境計画を策定。環境影響評価を充実させるため、民間事業での環境影響評価の検討も含め、北欧先進諸国の事例を調査する。

推進体制では、開発事業への理解を得るため、国民

熱帯林を考える

徳島県熱帯林問題研究会 猪俣栄一

5 熱帯林の土壌



2回にわたって、低地多雨林の林相や林内相観を見て来ました。ここで簡単に土壌のことを考えてみましょう。あまり面白くないかも知れませんが、熱帯林の姿を見て行く上で、どうしても土壌条件に触れない訳には行きません。

何故かと言うと、旺盛な生命力を誇っているように見える湿潤熱帯のジャングルが、実は温帯林とは較べものにならないほど脆弱で、デリケートな存在だということ、そして、だからこそ一度熱帯多雨林を破壊してしまうと復元困難だということ、この連載で強調して来ました。その理由が、気象条件とともに土壌条件にあると考えられるからです。

そして土壌条件が、逆に林型まで規定してしまふこともありますので、やはり避けて通る訳にはいかないでしょう。

〔土はどうやって出来るのか〕

熱帯林の土壌を考える前に、まず、「土」と呼ばれるものが、何から、どうやって出来るのかを簡単に見てみましょう。実は、土というものは地球上にはじめからあった物ではなく、生物の誕生と共に現れたのです。

一般的に土と呼ばれるものは、地球上にある岩石が、風化作用と土壌化作用と言われるかたちの過程を経て、次第に変化して出来たものです。岩石は風化作用という物理的、科学的な変化によって細かい粒となります。しかしそれだけでは土にはなりません。

岩石や、それから変化した細粒に、栄養をあまり必要としない地衣類、コケ類が生えはじめ、それらの遺体や微生物の

排泄物等が少しづつ蓄積されて行き、次第に高等な植物も現れて来るようになります。

やがては大型の草木や木本類が繁るようになり、そこで生活する動物や微生物も増えて来ますが、それに伴ってそれらの動植物起源の有機物質が増大し、岩石(母岩)から出来た細粒(母材)と混じりあい、いわゆる「土」が形成されて行きます。更にこの現象が進めば、土壌はだんだん肥沃となり、ますます大量の植物が繁茂するようになるのです。

その過程では、温度条件と水条件が大きな役割を果たすこととなります。土は、いつでもどんな条件でも肥沃になって行く訳ではありません。土の生成には母岩、気候、地形、そして植生その他が大きく影響しますが、特に気候、地形、植生とは土壌有機物の蓄積という点から関係が深いのです。

〔有機質の生成と土壌断面〕

前に、第4回の「林床景観」のところでA層とかF層とかいう言葉が出て来ま

した。ここでもう少し詳しくみておくことにしましょう。

若し、土が雨水等によって流されたりしなければ、一番深いところに風化作用を受けていない母岩があり、その上に風化作用で細粒となった母材があって、逆に一番上の地表には生物の死体や落ちたばかりの小枝、葉等が溜まった層があります。そのすぐ下には、くさりかかった腐植のまじった黒い土の層があります。

この母材だけの層をC層、表面の腐植の混ざった暗色部分をA層と言い、A層とC層の間には、腐植の影響を受けたB層という部分ができます。(図1参照)

ただ、こういう層が作られて行く形式は、それが作られて行く環境によってかなり違ったものとなります。一般には陸地で集積される陸成腐植、湿地や沼地に見られる半陸成腐植(第3回の10項に出て来る貧栄養湿地林はこれにあたります)沼や河川、湖等の底に溜まって行く水成腐植の三つに分けられます。

陸成腐植に限ってみても、針葉樹林、広葉樹林、寒帯、温帯、熱帯、乾燥地帯、

多雨地帯ではそれぞれかなり異なります。

でも、一般的に言えばA、B、Cの三層に分けられ、A層の表面の、殆ど腐植ばかりの層を特にA層と呼びます。A層は、普通さらにL層、F層、H層の三層に分けられます。(図2参照) L層というのは落葉や落枝がほとんどそのままの状態でもって積んでいる層、F層はかなり分解が進んで繊維状になっているが、まだ植物の組織が肉眼で見分けられる層、H層は更に分解が進んで、もう肉眼では組織が見分けられなくなった層です。(モーター型集積形式)

林床の土壌は基本的にはこの形をとりますが、温度が高く、水条件がよい森林では、落葉や落枝の分解が一段と速やかで、L層は極めて貧弱、F層は見当たらないか殆どない状態となり、つまりA層そのものがH層になっていきます。このような集積タイプをムル型といいます。

(図2参照)

熱帯林ではムル型より更に腐植の分解が進んだ形となり、特に多雨林ではその上に大量の降雨があるためにH層やA層

図1・土の成分及び土壌の分化

図2・陸成腐植の集積形式

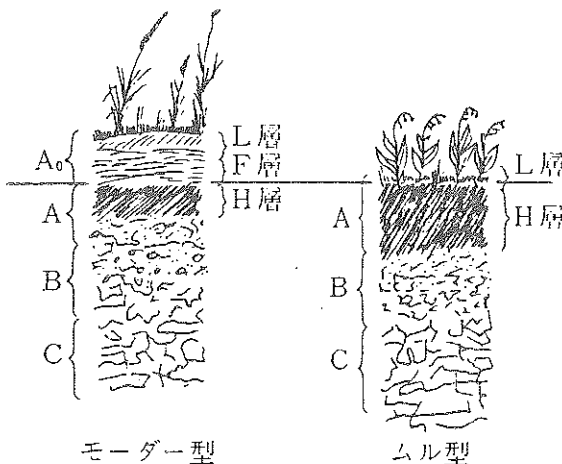


図2

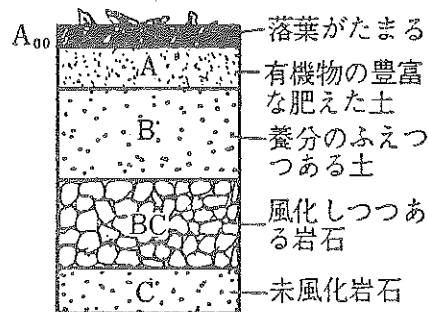


図1

が流亡し、一時的に出来る極く薄いL層のすぐ下が、いきなりB層ということになります。

〔熱帯林の土壌〕

土から見た熱帯林は、湿潤熱帯林（多雨林）、熱帯季節林、乾燥林の三種のタイプに分かれます。

このうち乾燥林（サバンナ林）は降雨量が非常に少ないため、岩石の風化や有機物の分解が進まなくなり、砂や礫が多くなります。そうすると植物相は一層貧弱となり、ますます腐植が少なくなるといふ悪循環をくりかえします。そのうえ土壌がアルカリ性となって行って、次第に不毛化して行きます。

季節林では、降雨量と乾期の長さ等の違いから、林型や樹種そのものの違いを生じて来ますので、一概には言えないのですが、定期的な落葉が起こり、地上に堆積するリターの量が確保され、そのうえ乾期には降水量が甚だしく減少するので分解がおくれて、地表附近に腐植が溜まって土質が改善され、ニトソルと呼ば

れる赤色土層が出現します。

ですから熱帯林の中では、適当な雨期を持つ季節林が最も土地生産力が高いのですが、それだけに早くから農地化されています。

〔低地多雨林の土壌特性〕

さて、問題の多雨林ですが、本当は、あまり土壌条件がよいとは言えないのです。何度かふれて来たように、高温多湿のためあまりにも分解が早すぎて、腐植層が常に貧弱で、いわば飢餓状態にある土だと言えましょう。

そのうえ一年を通じて大量の雨が降ります。分解された有機物は二酸化炭素と水と、そして植物に再吸収される無機物になります。この成分も大量の降雨によって洗脱されてしまうので、腐植とともに無機塩類にも乏しい土となり、年月を経るに従って養分の乏しい粘土質の土壌となり易いのです。

粘土化が進んだ土壌は空気が通りにくくなって酸素不足となり、土中の鉄分が還元されて灰青色の固い層（グライ層）

を持つグライソルとなります。この層が出来るは植物の根の発達を妨げるので、成長力が低下します。

この層は普通深いところに出来ませんが、低地多雨林の中の凹地や低地では、地下水が地表近くの浅いところで停滞するために酸素不足となって、表層グライ化土壌といえそうなところが出現します。これはスマトラ南部、中、東部カリマンタンの等の低地多雨林でしばしば見受けられます。

そういうところでは特に樹木の成長速度は遅いようで、また根の張りが悪く、板根が発達することによってやっと巨大な地上部を支えているという感じですが、

このような場所を大面積皆伐すると、地表が太陽光の直射を受け、また直接降雨の影響も受けて有機物の流亡や無機塩類の洗脱が甚だしくなり、イネ科のような強い生命力を持つ草本類は別として、元のような森林が回復して来るのは至難と言えらるでしょう。

しかし、過去に日本資本が関与した熱帯林業のやり方を見ている限り、そういう

う土壌特性までまでを考慮に入れて伐採を進めた例は見たことがありません。

「あとは野となれ山となれ」という言葉がピッタリの林業であったというのが実感です。

もっとも、土壌を含めた「熱帯林の生態」が明らかにされ出したのは、つい最近のことです。そして何とか森林を回復させようという取り組みも、はじまっただけばかりなのです。すべての成果はこれからというところなのでしょうが、願くば、人間社会の為だけの森林回復プロジェクトでないことを望みたいものです。

出所

図1 甲斐秀昭・橋本秀敏 共著

『土壌腐植と有機物』(76年) 17項

図2 同 " 23項

より無断転載

(参考・このあとの連載予定)

(順序は変わることもあり)

32号 地域毎、林型毎の

主な産出樹種と用途

33号 南洋材開発輸入の歴史

34号 我が国の南洋材輸入の形態と産業構造

35号 国産材利用で

南洋材に代替できるのか

36号 熱帯林保護運動のあるべき方向

現在の運動は、熱帯林保護に効果があるのか？



韓国・アジア太平洋地域森林環境保護会議に参加して

辻村 十力 孝

この2月、韓国・ソウルで開かれた「アジア太平洋地域森林環境保護会議」に参加しました。

今回の会議は、アジア太平洋地域のNGOが集まって、新たな状況を迎えているこの地域の森林・環境問題への対応を話し合おうという目的で企画されたものです。日本熱帯林行動ネットワーク（JATTAN）、マレーシアのアジア太平洋環境ネットワーク、韓国の経済正義実践連合、韓国環境運動連合、ベトナムの環境の会が共同で主催し、地元韓国を中心に日本、台湾、フィリピン、マレーシア、タイ、ラオス、カンボジア、インドネシア、パプアニューギニア、ソロモン諸島から五〇名あまりの参加者が集まりました。日本からは、通訳を含めて一三名が参加。東京以外からの参加は、私だけでした。

二月一七日の歓迎レセプションに続き、翌一八日から二日間、ソウル大学のゲストハウスで、

森林問題についての会議が行われました。初日は、主催者側からの概要報告の後、午後からの公開討論会をはさんで、参加各国からの報告が夜遅くまで行われました。その内容を簡単にまとめてみると、このところ最大の木材輸出国マレーシアの資源枯渇がいちじるしく、それを補うためにパプアニューギニア、ソロモン諸島での伐採が急激に増えています。これらの国には、日本の企業とともに韓国やマレーシアの企業も進出して伐採を行っています。インドネシアでも、合板輸出の増加にともない資源が枯渇し、諸島部やイリアンジャヤでの伐採が増えています。ラオス、カンボジアでも森林破壊が進み、タイ、日本、韓国、台湾向けの輸出などのために違法伐採が後をたちません。ラオスからは神社仏閣建築に使う巨木、ラオス檜も日本に輸出されています。以上のように、資源枯渇にともなう南太

平洋やインドシナ半島での伐採の増加と、日本企業以外にも韓国、台湾、マレーシアなどの多国籍企業の存在が大きくなっていくことが、新たな問題として指摘されました。また、伐採が対外債務返済のための資源の切り売りという形で行われていること、プランテーション、ダム、チップ生産のための植林、リゾート開発などによっても、森林破壊が進んでいることが報告されました。

翌一九日の午前中は、残りの参加国の報告に続いて、日本での熱帯木材削減運動の報告が行われました。まず建築家の林昭男さんが、熱帯木材の使用を減らした建築の例をスライドをまじえて紹介し、次に矢花公平弁護士（熱帯林保護法律家リーグ）が自治体キャンペーンの概要を説明、最後に私が、大阪での自治体との熱帯木材使用削減交渉の経過を話しました。私の場合、前夜突然に言われたので即席スピーチだったのですが、終了後多くの参加者から良いスピーチだったと言ってもらい感激しました。午後からは、まとめとして、多国籍企業や世界銀行などの国際金融機関に対してどのような

戦略を取っていくかを話し合いました。その夕方は韓国の伝統芸能を見学した後、食堂で韓国料理を味わいながら、トンドン酒（韓国の濁り酒）で大いに盛り上がりました。

私はここまでで帰国したのですが、その後、多国籍企業についての討論などを行い、二日間で会議の全日程を終了したとのことです。JATANの黒田洋一さんはパプアニューギニアとソロモン諸島からの参加者とともに、南太平洋地域と関わりの深い韓国の大手木材企業を訪問しましたが、世間の評判を気にしてか、丁寧に歓迎されたということでした。

朝から夜遅くまで会議が続ぎ、また深刻な内容の話が多かったにもかかわらず、会議は時々笑い声のもれるなごやかな雰囲気が進みました。予算の少ない中、準備のために走り回り、あたたかいもてなしを用意してくれた韓国のスタッフには、頭の下がる思いです。韓国の環境保護運動の第一線に立つ彼らと知りあえたのは、私にとって大きな収穫のひとつです。今回の会議の韓国側の主催団体は、それぞれ

数十名のスタッフを持つ全国組織です。熱帯林問題には取り組み始めたばかりということですが、今後強力な運動を進めていくことと思います。

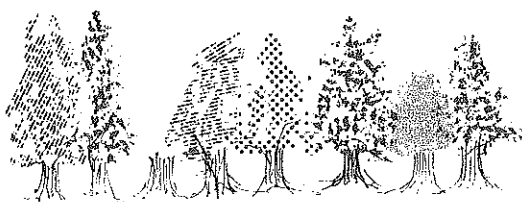
また、たまたま知り合った一般参加の韓国人のおじさんに、「日本は朝鮮半島の分断に責任があるのだから、統一に協力してくれるように、日本人々に伝えてほしい」と激しい口調で言われるという一幕もありました。会議の中でも、ソロモン諸島からの参加者が、第二次大戦中の森林破壊と、日本の戦跡訪問団の問題にふれるなど、日本の戦争責任を抜きにして、アジア太平洋地域の人々と信頼関係を築くことはできないとあらためて思いました。

韓国人の参加者が、日本のグループの主催するパプアニューギニアへのスタディーツアーに参加することになるなどそれぞれのネットワークも広がったようです。

今後、このような会議が続けて開催されるとともに、日本全国の地域グループから多くの人々が参加することを願っています。



写真
会議で発言する辻村（2月19日）



三菱化成のマレーシア・ブキメラ村への公害輸出

ARE裁判、最高裁判決は逆転住民敗訴

——今、私たちがなすべきことは——

昨年12月24日、三菱化成の現地法人・ARE社の放射性廃棄物放置に対する最高裁判決が下された。被害者住民側の逆転敗訴という、予想以上に厳しい判決である。

最終弁論が行われた時、ブキメラ村住民たちはバス40台をチャーターし、大挙して最高裁へと傍聴に詰め掛けた。判決は、人入をかわすかのように日をずらし、言い渡しの2時間前に通告された。原告側弁護士が間に合わないまま、被告ARE側の関係者のみの列席の中、判決が言い渡された。住民たちを軽視したこの判決言い渡しは、日本がマレーシアへ何か政治的な配慮を求めたのではないかと動線ってしまう程、不公平な幕切れとなった。

（「世界のミツビシ」が逃げ出した!）

今年1月に入り、ARE社の親会社である三菱化成は、同社のマレーシアからの撤退を発表。しかしそれも「事業の将来性がない」と経済的な問題のみを挙げ、「健康被害の事実はない」（竹村参議院議員の質問に対する三菱化成・斉藤常務の返答）と、

頬かむり、厚顔無恥ぶりは一貫している。この最高裁の判決により三菱は、全てが終わった、との姿勢を取り続けている。

（ツケを弱者に回し続ける三菱化成）

責任など認めない、そもそも被害など無いという立場故、三菱は当然すべき被害者住民への医療対策を一切行おう意思が無い。

現に複数の死者が出ている、今なお病に苦しんでいる子どもたちがいる、高い流産率に脅える母親たちがいる。救済対象への医療サポートは今のところ、責任者たる三菱ではなく、住民たちの自助システム「ブキメラ医療基金」によってなされている。

AREが閉鎖される為、現地に放置されている放射性残土の処理はなされず、そのままという形になるであろう。これは、現在出ている健康被害だけでなく、今後新たな被害者住民——白血病等の各種の癌、流産や障害の発生——が出ることを意味している。特にそのツケを背負わされるのが子どもたち、次の世代の人たちである。

このようなことは人道から、国際的

な視点からも、更には環境問題の見地からも、断じて許されないことである。

（私たちにできることは?）

ブキメラ村住民は、ARE閉鎖を歓迎しながらも、放射性残土の処理問題を三菱側に追求していく考えである。

追い出されたのは「世界のミツビシ」であると同時に、第三世界ならば公害輸出をしても許されるという、日本企業の金持ち意識・奢りの姿勢でもある。世界から問われているのは、実は私たち一人ひとりなのではないだろうか。

（文責・風）

☆この4月に、現地住民らが来日します。大阪でも4月30日に市内で支援の為に集会があります。☆毎月第三木曜日には、淀屋橋の三菱化成前にてピラ撒きを行っています。サポーター募集中です☆三菱化成の責任を問う関西の会への問い合わせは、ウータン気付けでも回送します。

☆電話連絡・1100-51278101☆



◆皆さん、元気ですか？ 私はニュージーランドの Dunedin で熱帯林グループに入会しました。地域に働きかけて消費者教育を改善しようと試みています。ウータンのみんなはとても親切でいい思い出です。

Sabishi! des……ne!

——ニュージーランドより——サリー・ステイブンス

◆御健祥を祈念致します。世界が平和でありますように。子供達が健やかに育ちますように。合掌

——紫田 秀芳

◆個人的に忙しくて、積極的な参加はできませんが、応援だけならさせていたいただきます。思います。

——真崎 庄司

◆集まり難、たまには参加できたらと思うのですが、仲々行けず残念です。

——畑 健次郎

◆いつも通信をありがとうございます。サラワクのスライドを見て次のような詩ができました。みなさんの今後の運動に期待します。

「サラワクの森」

——畑 章夫

森の木には名前があった
森の石にも名前があった
一本の木に生活の印があり
一本の木には歴史があった
大きい石の一個に名前があった
小さい石の一個に歴史があった

「お前が20歳になったら
この木を境にあの大きな石まで
焼いて畑にすること」
と おじいさんは言った
森の生活は決して
取り尽くさず 奪い尽くさず
「尽くさず」の世界は
限りなく優しい

ある日

「この森はだれのものだ」と問われた
「この森はみんなのだ」と答えた

「所有権がはっきりしない」と
ブルドーザーが走った

深い深い森に
引っ掻き傷を

あっちこっちにつけ

縦につけ横につけ

深く深く傷つけた

ひっくりかえされた樹木が

根っこを空に向ける

チェーンソーがうなる

トラックが地響きを立てて走る

虫が死に

動物が死に

鳥が追われ

村の若者が追われ

子供や老人が死んだ

切り払われた森

近代化された土地

赤茶けた大地

に 熱帯の太陽は容赦がない

ゆらゆらとかげろう

のむこうに ビルが林立する

日本

◆樹木の大切さは誰もがわかってはいるはず。サラワクの現状をより多くの人を知る必要があると思います。がんばれウータン、がんばれ西岡さん！
——鈴木美津恵

◆大阪の皆さんの取組は私たちにとても大変良い手本になっていきますので今後もう一度お願いいたします。
——平井英司

◆いつもご苦労さま！「ウータン」読むだけの会員です！まへへん。でも、その態度身のまわりを見直したり、人に話しかけたりするヒントを頂いています。又、いっかじこかでお会いできますネ。——松井義子

◆今日の最も悪しき流行である自然主義を排して、環境問題に取り込みましょう。そして、ブラジルの CERADOS のことをこれから問題にしましょう。
——ジョキアン・モンテイロ

◆いつも美しい会報ありがとうございます。会費をポケットマネーで出していますが、職場の情報コーナーで市民の方に閲覧していただいています。
——百南幸弘

◆一家4人、風邪で全滅中の我が家へ久しぶりに届いた「ウータン」。うすうすかしいところもありますが、子供みれの生活の合間をぬって読んで勉強させてもらいます。
——宮野由紀子

※この他、小川輝樹さん、南研子さん、坂口友良さん、加賀美幸子さん、馬谷憲親さんからいただきました。

「会費とカンパ」を送って下さった方々

〔大阪〕 (94年3月中旬まで)

- アイソンスミス 真崎庄司 柴田秀芳
- 奥村功・和子 飯高輝 太田俊男
- 山内智 松尾光雄 北村千枝子
- 一鷹要一 伊東哲男 畑健次郎
- 鈴木美津恵 香本明世 田中順子
- 小野隆史 永田博子 大東弘
- パティ・テレステ学園 森みどり
- 山口ハナ代 向井千晃 大田敏一
- 西谷陽子 玉山ともよ 石中英司
- 水野武夫 松井義子 小森富美枝
- 加藤昌彦 春日美恵子 山本万年
- 堀口和恵 富崎正人 太田栄栄
- 米沢興治 鶴川 まき 恒成和子
- 三澤文子 倉塚かつみ 面 和孝
- 二本洋子 藤村はるえ 棚田明宏

- 明園正和 大森雄二 田中愛子
- 横見幸子 小吹岳志 木村久吉

- 〔兵庫〕 石上リカ 堀越英代
- 越智清水 進藤みゆき

- 大平浩子 遊上義一 伊東万千子
- 宮野由紀子 加賀美幸子 上田真弓
- 菊池明子 山本将嗣・紀子 井下秀子

- 〔京都〕 中村尚司 飛鳥井佳子
- 在田敬子 大田伊久雄 馬谷憲親
- 本田次男 竹内奈緒美

- 〔東京〕 櫻本慈弘 湯川れい子
- 齊藤誠 藤田哲 南研子(ママ)
- 林昭男

- 〔奈良〕 由良行基簡 市崎英二
- 坂口友良 氏家富美子

- 〔滋賀〕 平井英司 ジョキアン・モンテイロ
- 〔埼玉〕 橋本崇史 〔神奈川〕 古南幸弘
- 〔岡山〕 小川輝樹 〔静岡〕 下山久美子
- 〔和歌山〕 五味義明 〔滋賀〕 井川左蔵
- 〔徳島〕 谷一能 〔鳥取〕 足立節雄

- 〔福岡〕 蓮原耕児 〔山形〕 高橋敬一

- 【森の鼓動の賛同金】
- 太田敏一 斎賀

- 〔敬称略、順不同〕
- 皆さん、どうもありがとうございました。

石丸 千里 CHISATO ISHIMARU

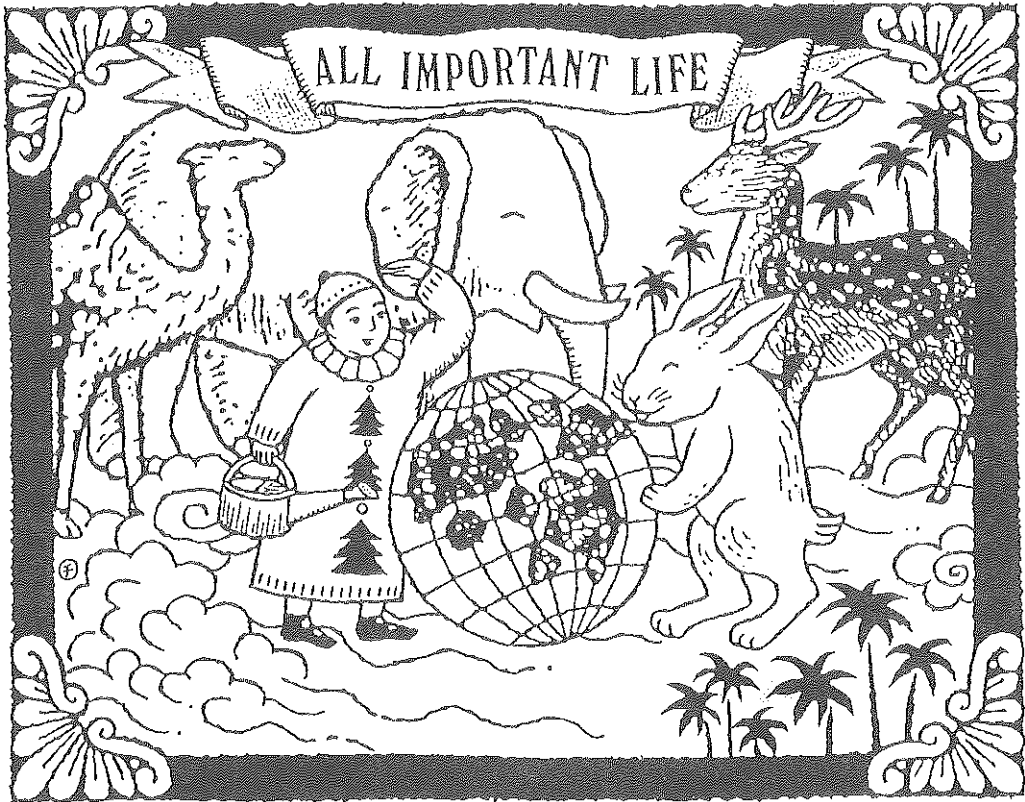
1957年、京都生まれ。京都在住。

大阪芸術大学デザイン学科卒業。

「地球上のたくさんの命を大切に考えたいです。」千里

HUTAN ART GALLERY
フタノアートギャラリー

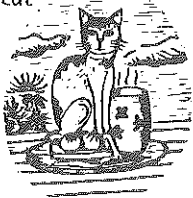
10



©1994. 1000-Ri Production.

- 今回のイラストも又、夏頃までにTシャツにできればなあと思っております。ご期待を…！
千里さん、どうもありがとうございました。
このコーナーに描いていただけの方へ原画をお送り下さい。募集甲です！ヨロシク！

E. HORI cut



昨年も皆さんのあたたかい応援のおかげで何とかやってこられました。

どうぞこれからもよろしくお願ひします。

年の会計報告をせてもらいます。

ウータンから

井下祥子 会計

・ 93年度会計報告 ・

(93年1月～12月)

[収入]	
前年度繰り越し	279,422
会費	469,000
カンパ	263,372
物品	120,000
講師謝礼	36,000
集会参加費	106,200
パネル貸し料	7,000
合計	1280,994円
[支出]	
印刷費・紙代	218,996
送料	243,578
家賃	130,000
謝礼	214,470
会場費	48,250
パネル等製作費	52,369
コンサート赤字	8,348
雑費	42,336
次年度繰り越し	322,647
合計	1280,994円

「HUTAN ACTION SCHEDULE」

・ウータン主催

94年4月～7月

「熱帯林連続講座」



ウータンでは今年、いままでの活動のすゝ野を広げ、活動メンバーを増やし(あまりにも少ないスタッフ!トネホ...)が、スタッフの研修を目的とした「熱帯林連続講座 — 未来に森を残すために —」をもつことにいたしました。各講座約40名ぐらいの参加を予定しておりほめるどうぞご参加下さい。

Vol.① 4月16日(土) 6p.m～9p.m

「熱帯林って何だ」ビデオ上映+W-7ショック

【お話し】荒川共生(関西でエナーハウス職員)

Vol.② 5月21日(土) 6p.m～9p.m

「熱帯林の生態」スライドを交えて

【お話し】窪田弘之さん(京都大学農学部教授)

Vol.③ 6月4日(土) 6p.m～9p.m

「先住民の暮らしと熱帯林業」スライドを交えて

【お話し】井上真さん(東京大学農学部林学科)

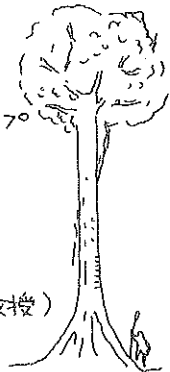
Vol.④ 7月10日(日) 1p.m～4p.m

「なぜ、熱帯林を守るのか?」スライドを交えて

【お話し】猪俣栄一さん(徳島熱帯林問題研究会)

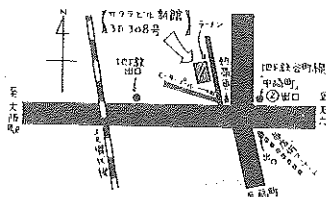
会場> アピオ大阪 (JR森之宮、地下鉄中央線森之宮下車 面へスグ)

<参加費> 各800円(レジュメ代含)

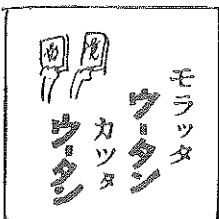


*詳しくはビデオをダウンロード下さい。

【ウータン事務局】



●ウータン定例会は、第2と第4火曜日午後7時半から、関西市民連合「事務局」(上記地図)にて行っております。
TEL:06(3)72-1561
まで。



KOO あたし空です。ねこします。ママは、嵐です。ウータンします。あたし、寝ています。ママ、ワ-700打っています。あたし、ごらんしています。ママ、おひげは伸びています。あたし、おひげを伸ばしています。ママ、カットで切り切りしています。あたし、おひげを伸ばしています。ママ、おひげを伸ばしています。ママ、ウータンたのしい。……あたし、ねこします。(おこから見たら)という其造(風)

HUTAN

